

淡水魚増殖試験

チャンネルキャットフィッシュ 親魚養成試験

鈴木博也

当県における内水面養殖業振興の一助とするため、昭和57年6月に埼玉県水産試験場から本種のふ化仔魚1,700尾を移入した。今年度もこれまでと同様に親魚化のための養成試験を実施したので、その概要を簡単に報告する。

材 料 と 方 法

1. 飼育魚

昭和57年6月から継続して飼育している3年魚である。

2. 飼育池

282 m^2 の亀甲型の池（側壁はコンクリート、池底は泥、排水口側に約2坪の魚溜りがある）1個で、水深0.7 m 程度で流水飼育とした。

3. 給 餌

配合飼料は日本農産KK製コイ用8号で、原則として、1～2月はあまり給与せず、4～11月は1日当たり2～4 kg を午前と午後の2回に分けて給与した。その他の時期は好天の日を選び、適宜給与した。

4. 魚体測定

飼育魚を捕揚げたときに、その中から20尾を無作為に抽出して、そのまま測定した。

結 果 と 考 察

1. 飼育と摂餌状況

飼育期間中の昭和61年7月21日夜、豪雨により三刀屋川が増水して飼育池が一時的に冠水したが、周りに囲い網が設置してあったので、魚群の逸散は殆んどなかった。その他魚病が発生などによる大量斃死は認められなかった。

また、本種は平常池底を遊泳しており、配合飼料を給与しても魚群は浮上せず池底に沈下した飼料を群がって摂餌したが、冬期は池の中央附近の1ヶ所に群泳し、水温が低下するにしたがい、摂餌行動は不活発になった。

2. 成長状況

昭和59年5月9日に31尾を捕揚て体長、体重を測定した結果は、体長が平均17cmで体重は平均122gであった。昭和60年度は業務の都合上測定ができなかったが、今年度は4月30と10月2日の2回、全部の魚を捕揚げて20尾を無作為に抽出して体長と体重を測定した。

10月2日の測定結果は体長が平均36cmで体重は平均1.6kgであり、2年半で体長は約2倍、体重は約13倍に成長したことになる。しかし、中には稀れに小型魚があり、肥満度も15~16で充分とは言えないが、殆んど個体が体長40cm以上で体重は1.2kg以上に成長しており、来年度は親魚として充分使用できるのではないかと推測された。

飼育魚の総数は143尾であった。表1に体長と体重を示した。

要 約

1. 前年度に引続き、チャンネルキャットフィッシュの親魚養成試験を実施した。
2. 飼育期間中に豪雨があり、飼育池が一時的に冠水したが、囲い網があり魚群の逸散は殆んどなかった。
3. コイ用配合飼料で飼育したが、殆んど個体が体長40cm以上、体重1.2kg以上に成長した。現在の飼育尾数は143尾である。

表1 飼育魚の体長と体重

測定日		BL	BW
61. 4.30	Max	49	2.1
	Min	33	0.5
	Ave	43.0 ± 4.1	1.3 ± 0.4
61. 10.2	Max	52	2.5
	Min	28	0.2
	Ave	43.6 ± 6.1	1.5 ± 0.6

BL (cm), BW (kg), $\bar{x} \pm SD$ DATA VOL20